

腫瘍細胞の生存を低下させるアンチセンスオリゴヌクレオチド

元学長 河野公俊、呼吸病態学 和泉弘人

利用分野

肺がん、血液のがんである白血病、なかでも悪性度が高く有効な治療方法がないがんに対して、機能性核酸と天然物質である β グルカン多糖がバインドして複合体を形成することを利用したDDS化核酸医薬品の開発。

シーズ

YB-1（Yボックス・バインディング・プロテイン1）をコードする核酸分子を標的とすることで腫瘍細胞の生存を低下させる技術で特許登録した（特許第5697010号）。本発明では、最も効果的なアンチセンスオリゴヌクレオチド配列を提供する。北九州市立大学櫻井教授らが開発した β グルカン/核酸複合体プラットフォーム技術と組み合わせることでDDS化核酸医薬品の実用化につなげることが可能となる。



ニーズ

YB-1（Yボックス・バインディング・プロテイン1）の発現抑制は腫瘍細胞の生存を低下させることが期待できるが、最も効果的な配列は分かっていない。153種類のアンチセンスオリゴヌクレオチドを腫瘍細胞に各々導入し、網羅的に腫瘍細胞の生存を評価することが求められている。

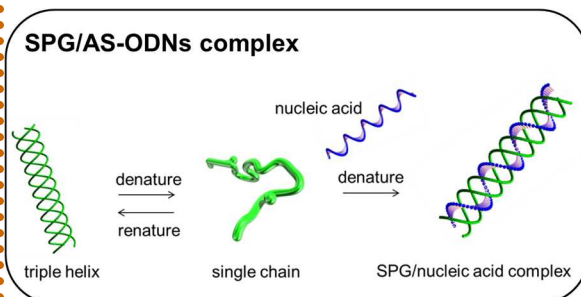
連携分野

癌転移・浸潤関連分子（YB-1）を標的とした核酸医薬品開発のための共同研究の実施。



知財保護

特許第6752495号



悪性の肺がんおよび白血病を標的にした治療へ



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp